NFC

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

映画の中の日本文学 Part 2

Japanese Literature in Film Part 2 [Film Screening]

2009年4月3日㊎－4月19日㊐

4月の休館日：
月曜日，3月30日(月)－4月2日(木)

大ホール
開映後の入場はできません。
定員＝310名(各回入替制)
料金＝一般500円／高校・大学生・シニア300円／小・中学生100円／
障害者(付添者は原則1名まで)は無料
発券＝2階受付
- 観覧券は当日・当該回にのみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行い，定員に達し次第締切となります。
- 学生，シニア(65歳以上)，障害者の方は，証明できるものをご提示ください。
- 発券は各回1名につき1枚のみです。

東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

2009
4
NFCカレンダー
2009年4月号

大ホール上映作品

映画の中の日本文学 Part 2

Japanese Literature in Film Part 2 [Film Screening]

世界の映画史をひもとけば，どの国の映画も，そこで生まれた優れた文学作品を糧として発展してきたことが分かります。映画大国日本も例外ではなく，その百年以上にわたる歴史を通じて，さまざまな文学者たちの残したテクストが脚本家や監督たちを絶えず刺激してきました。

この上映企画は，フィルムセンター展示室にて開催の展覧会**「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 2」(4月3日〜6月18日)**の関連企画として，展示企画が対象とする昭和の始まりから終戦期までの文学作品を原作とする映画に焦点を当てたものです。個々の文学作品が各時代の文化状況の中でいかに一本の映画に“翻訳”されたかを，16本(15プログラム)の名作を通じてたどります。

■㊫＝監督　㊧＝脚本・脚色　㊨＝撮影　㊥＝美術・装置　㊩＝音楽　㊪＝出演
■スタッフ，キャストの人名は原則として公開当時の表記を記載しています。
■記載した上映分数は，当日のものと多少異なることがあります。
■特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。

●作品解説：田中眞澄

◆川端康成「伊豆の踊子」(1926年)

川端康成が満19歳，1917年の体験を，26年に小説として発表したものを，同時代読者だった五所平之助が田中絹代(23歳)主演で映画化を実現した。純文学作品の映画化が珍しかった時代で，この成功がその後の“文芸映画”流行のさきがけとなったともいえよう。ただし大衆観客に配慮して，かなり物語的な枝葉を脚色せざるをえなかった。「伊豆の踊子」映画が思春期スター売り出し商品となるのは戦後だが，元来淡々たる原作なので，合計6回の映画化は，何れも原作を離れた設定や人物を加えている。戦後最初の美空ひばり(17歳)主演版は基本的に戦前版を踏襲，続く鰐淵晴子(15歳)主演版では旅芸人家族のしがらみが強調されるなどは，松竹メロドラマの伝統だろうか。概して後の作になるほど原作を尊重する態度が強まるのは，川端の文壇的社会的地位の上昇と，小説「伊豆の踊子」が青春文学の古典として位置づけられたことの反映である。一方で，原作との時間的距離は拡大し，その結果，吉永小百合(18歳)主演版は回想形式の枠組を設定している(そこでは現在がモノクロで過去がカラーで表現された)。そのような原作との距離感は，リメイクを重ねるうちに抒情性よりそこに潜在する社会性に目を向けさせるようになる。内藤洋子(16歳)主演版に萌芽として見られた踊子の悲劇性は，山口百恵(15歳)主演版では意識的な環境表現によって強調された。その最後のストップ・モーションから三十数年，新しい『伊豆の踊子』が途絶えているのは，映画界と青春と，双方が変容した結果だろうか。二回監督した西河克己に『「伊豆の踊子」物語』の著作があるが，自作に格別の愛着を抱いていたのはやはり初作の五所だったろうか。「踊り子といへば朱の櫛あまぎ秋」五所亭。

1　4/3(金)3:00pm　4/11(土)4:00pm

恋の花咲く 伊豆の踊子
(124分・18fps・35mm・無声・白黒)
'33(松竹)㊫五所平之助㊧伏見晃㊨小原譲治㊥金須孝，木村宣郎，秋田良之助㊪田中絹代，大日方傳，小林十九二，若水絹子，高松栄子，兵藤静江，新井淳，竹内良一，河村黎吉，水島亮太郎，坂本武

2　4/3(金)7:00pm　4/12(日)1:00pm

伊豆の踊子(97分・35mm・白黒)
'54(松竹)㊫野村芳太郎㊧伏見晃㊨西川亨㊥梅田千代夫㊩木下忠司㊪美空ひばり，石浜朗，由美あづさ，片山明彦，雪代敬子，三島耕，日守新一，南美江，松本克平，多々良純，桜むつ子

3　4/7(火)3:00pm　4/15(水)7:00pm

伊豆の踊子(87分・35mm・カラー)
'60(松竹)㊫川頭義郎㊧田中澄江㊨荒野諒一㊥岡田要㊩木下忠司㊪鰐淵晴子，津川雅彦，桜むつ子，田浦正巳，城山順子，瞳麗子，中村是好，戸塚雅哉，佐竹明夫，吉川満子，小林十九二，浅茅しのぶ，野辺かほる

4　4/7(火)7:00pm　4/16(木)3:00pm

伊豆の踊子(87分・35mm・カラー)
'63(日活)㊫㊧西河克己㊨三木克巳㊥横山実㊩佐谷晃能㊪池田正義㊪高橋英樹，吉永小百合，浜田光夫，大坂志郎，堀恭子，浪花千榮子，茂手木かすみ，十朱幸代，南田洋子，深見泰三，郷鍈治

5　4/8(水)3:00pm　4/16(木)7:00pm

伊豆の踊子(85分・35mm・カラー)
'67(東宝)㊫㊧恩地日出夫㊨井手俊郎㊥逢沢譲㊩育野重一㊪武満徹㊪黒沢年男，内藤洋子，江原達怡，田村奈己，乙羽信子，高橋厚子，団令子，二木てるみ，北川町子，酒井和歌子，小沢昭一，西村晃

6　4/4(土)1:00pm　4/15(水)3:00pm

伊豆の踊子(82分・35mm・カラー)
'74(東宝＝ホリプロ)㊫西河克己㊧若杉光夫㊨萩原憲治㊥佐谷晃能㊩高田弘㊪山口百恵，一の宮あつ子，三浦友和，中山仁，千家和也

恋の花咲く 伊豆の踊子(1933年，五所平之助監督)

伊豆の踊子(1967年，恩地日出夫監督)

伊豆の踊子(1954年，野村芳太郎監督)

伊豆の踊子(1974年，西河克己監督)

7 4/9(木)3:00pm 4/18(土)1:00pm

若い人(81分・35mm・白黒)

原作▶石坂洋次郎(1933-37年)

後年の人気作家・石坂洋次郎の出世作で，戦後も3回リメイクされた小説の同時代における最初の映画化。奔放で挑発的な女学生が主役の物語は自由が抑圧された時代に象徴的な意味を持つが，検閲からは危険視され，監督の豊田は彼女を環境の犠牲として描くことで企画を実現した。文芸映画監督・豊田四郎の生涯を決定づけた一作。

'37(東京発声)㊥豊田四郎㊧八田尚之㊨小倉金弥㊩河野鷹思㊫久保田公平㊥大日方傳，市川春代，夏川静江，英百合子，山口勇，伊藤智子，林千歳，押本映二，鹿島俊策，松林清三郎，春日章，松田宏一，吉川英蘭

8 4/5(日)4:00pm 4/17(金)3:00pm

鞍馬天狗 江戸日記(63分・35mm・白黒)

原作▶大佛次郎(1934-35年)

生みの親は大佛次郎。育ての親は嵐寛寿郎。時代劇映画最大のヒーロー鞍馬天狗の生命は，映画デビュー以来約40本を演じたアラカンの偉大なマンネリズムあってこそ。「江戸日記」は地方紙の連載で，天狗が京都を離れた異色作だが，原作には登場しないはずの杉作少年などにも出番を与え，年少観客への配慮も忘れていない。

'39(日活)㊥松田定次㊧比佐芳武㊨吉見滋男㊫高橋半㊥嵐寛壽郎，河部五郎，原健作，香川良介，瀬川路三郎，尾上菊太郎，志村喬，遠山満，團徳麿，宗春太郎

9 4/9(木)7:00pm 4/19(日)4:00pm

土と兵隊[不完全](144分・16mm・白黒)

原作▶火野葦平(1939年)

日中戦争が本格化した時期に従軍記「兵隊三部作」で時代の寵児となった火野葦平の「麦と兵隊」に続く第二作を，『五人の斥候兵』で好評だった田坂具隆が監督。現地の戦場ロケで「戦争とは歩くことだ」との感慨を得た田坂は，戦争賛美を避け，ひたすら歩く兵隊を画面に再現した。出演俳優のうち二人がのちに実際に戦死した。

'39(日活)㊥田坂具隆㊧笠原良三，陶山鐵㊨伊佐山三郎㊩柴田篤二㊫中川榮三㊥荒木重夫，山本礼三郎，東勇路，井染四郎，小杉勇，加藤章，長尾敏之助，土田義雄

10 4/8(水)7:00pm 4/12(日)4:00pm

注文の多い料理店(19分・35mm・カラー)

原作▶宮沢賢治(1924年)

さまざまな素材を用いて，アイディアに満ちた多彩な作品を世に送り，1990年に死去したアニメーション作家岡本忠成の未完の作を，遺されたプランをもとに，永年の盟友・川本喜八郎が監修して完成させた宮澤賢治のやや辛辣な寓話。従来の岡本作品に比べて，大人の鑑賞を意識したような微妙な作風の変化が興味深い。

'91(エコー＝桜映画社)㊥㊧岡本忠成㊨高橋明彦，中出三記夫㊪奥山玲子，阿部信子，吉良敬三，吉田悟，横川たか子，宮林英子，秦泉寺博，鈴木伸一ほか㊩川下倫子，小野沢節子，徳山正美㊫広瀬量平

風の又三郎(96分・16mm・白黒)

原作▶宮沢賢治(1931-33年)

東北の風土に根ざしつつ豊饒な詩的世界を展開した宮澤賢治の評価は没後に高まる。生前未発表の童話「風の又三郎」の映画化もその機運の所産。日活多摩川の文芸路線の伝統と，名子役・片山明彦の存在がそれを可能にした。先に劇団東童の劇化上演があり，その舞台の主役・大泉滉らの少年俳優たちが，映画にも出演している。

'40(日活)㊥島耕二㊧永見隆二，小池愼太郎㊨相坂操一㊩進藤誠吾㊥片山明彦，風見章子，中田弘二，見明凡太郎，北龍二，林寛，西島悌四郎，大泉滉，星野和正，小泉忠

11 4/10(金)3:00pm 4/18(土)4:00pm

大日向村(84分・35mm・白黒)

原作▶和田伝(1940年)

財政破綻に瀕した長野県大日向村が，満洲への分村移民政策に応じて，その第一号となる。農民文学作家和田伝が小説に書き，前進座が劇化上演し，さらに映画になる。国策の広告塔として特別に優遇されたので，敗戦時の犠牲は他の村より少なく，彼らが開拓の真の厳しさに直面したのは，戦後浅間山麓に入植した時だった。

'40(東京発声)㊥豊田四郎㊧八木隆一郎㊨小原譲治㊩園眞㊫中川栄三㊥河原崎長十郎，中村翫右衛門，市川菊之助，市川莚司，助高屋助蔵，山本健次，橘弘子，三井康子，山本貞子，杉村春子，伊藤智子，原緋紗子

12 4/11(土)1:00pm 4/17(金)7:00pm

無法松の一生(78分・35mm・白黒)

原作▶岩下俊作(1939年)

原題『富島松五郎伝』。その題で1942年に文学座で上演(主演丸山定夫)。無頼の車夫が恩義ある軍人一家に捧げた殉情と献身。映画版は旧千恵プロ時代の僚友の脚本と演出で，戦時下に人間味溢れる作となるも，軍人の妻への慕情の表現を検閲は許さず，暴力的場面は戦後に占領軍が切除。稲垣は1958年に完全版を再映画化した。

'43(大映)㊥稲垣浩㊧伊丹万作㊨宮川一夫㊩角井平吉㊫西梧郎㊥阪東妻三郎，月形龍之介，永田靖，園井惠子，川村禾門，澤村アキオ，杉狂兒，山口勇，葛木香一，尾上華丈，小宮一晃，香川良介，小林叶江

13 4/10(金)7:00pm 4/19(日)1:00pm

今ひとたびの(118分・35mm・白黒)

原作▶高見順(1946年)

知識青年の左傾と戦争という歴史の体験をふまえつつ，婦人雑誌の連載としての媒体を意識した原作は，高見順の戦後最初の長篇小説で，これも戦後第一作の五所平之助の演出により，荒廃の世相に甘美なメロドラマとして迎えられた。ラストの原作との違いは，映画観客を考慮した五所の提言を高見が認めたためという。

'47(東宝)㊥五所平之助㊧植草圭之助㊨三浦光雄㊩松山崇㊫服部良一㊥髙峰三枝子，龍崎一郎，田中春男，北澤彪，河村弘二，清水將夫，谷間小百合，一の宮敦子，中北千枝子，出雲八重子

14 4/4(土)4:00pm 4/14(火)3:00pm

太陽のない街(142分・35mm・白黒)

原作▶徳永直(1929年)

1929年はプロレタリア文学の代表作が二篇世に出た年である。一つは小林多喜二の「蟹工船」。もう一つが徳永直の「太陽のない街」で，彼が体験した共同印刷争議を小説化したもの。翌年には築地小劇場で上演。だが大衆的影響力が大きい映画化は不可能で，実現したものは両作とも戦後，親左翼的独立プロによってであった。

'54(新星映画社)㊥山本薩夫㊧立野三郎㊨前田実㊩久保一雄㊫飯田信夫㊥日髙澄子，二本柳寛，桂通子，原保美，小田切みき，多々良純，北林谷栄，東野英次郎，殿山泰司，安部徹

15 4/5(日)1:00pm 4/14(火)7:00pm

関の彌太ッペ(84分・16mm・白黒)

原作▶長谷川伸(1930年)

大衆演劇の世界に長谷川伸が開拓した股旅物は，繰り返し映画化された時代劇ジャンルの宝庫だった。「関の彌太ッペ」は1930年の林長二郎主演作以来，8本を数える。もとは澤田正二郎没後の新国劇のために書かれ，島田正吾が永年当たり役としただけに，その彼が主演した映画には芸能文化が交わる独自の意味があろう。

'55(新東宝)㊥渡邊邦男㊧三村伸太郎㊨友成達雄㊩梶由造㊫松井八郎㊥島田正吾，辰巳柳太郎，河村憲一郎，水原真知子，宇治みさ子，花柳小菊，石山健二郎，秋月正夫，宮本曠二朗，清水彰，花岡菊子

若い人

無法松の一生

鞍馬天狗 江戸日記

今ひとたびの

土と兵隊

関の彌太ッペ

2009
4
大ホール

映画の中の日本文学 Part 2

Japanese Literature in Film Part 2 [Film Screening]

	月	火	水	木	金	土	日
3月	30	31	1 休館	2	3 1 3:00pm 恋の花咲く 伊豆の踊子 [1933年、五所平之助] (124分) 2 7:00pm 伊豆の踊子 [1954年、野村芳太郎] (97分)	4 6 1:00pm 伊豆の踊子 [1974年、西河克己] (82分) 14 4:00pm 太陽のない街 (142分)	5 15 1:00pm 関の彌太ッペ (85分) 8 4:00pm 鞍馬天狗 江戸日記 (63分)
4月	6	7 3 3:00pm 伊豆の踊子 [1960年、川頭義郎] (87分) 4 7:00pm 伊豆の踊子 [1963年、西河克己] (87分)	8 5 3:00pm 伊豆の踊子 [1967年、恩地日出夫] (85分) 10 7:00pm 風の又三郎 他 (計115分)	9 7 3:00pm 若い人 (81分) 9 7:00pm 土と兵隊 (144分)	10 11 3:00pm 大日向村 (84分) 13 7:00pm 今ひとたびの (118分)	11 12 1:00pm 無法松の一生 (78分) 1 4:00pm 恋の花咲く 伊豆の踊子 [1933年、五所平之助] (124分)	12 2 1:00pm 伊豆の踊子 [1954年、野村芳太郎] (97分) 10 4:00pm 風の又三郎 他 (計115分)
	13	14 14 3:00pm 太陽のない街 (142分) 15 7:00pm 関の彌太ッペ (84分)	15 6 3:00pm 伊豆の踊子 [1974年、西河克己] (82分) 3 7:00pm 伊豆の踊子 [1960年、川頭義郎] (87分)	16 4 3:00pm 伊豆の踊子 [1963年、西河克己] (87分) 5 7:00pm 伊豆の踊子 [1967年、恩地日出夫] (85分)	17 8 3:00pm 鞍馬天狗 江戸日記 (63分) 12 7:00pm 無法松の一生 (78分)	18 7 1:00pm 若い人 (81分) 11 4:00pm 大日向村 (84分)	19 13 1:00pm 今ひとたびの (118分) 9 4:00pm 土と兵隊 (144分)

小ホール(地下1階)

日本・ブルガリア外交関係再開50周年記念
日本・ドナウ交流年2009

ブルガリア映画特集

50 Years of Reestablishment of Diplomatic Relations between Bulgaria and Japan

Bulgarian Film Week

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター
ブルガリア共和国大使館

4月29日(水・祝)－5月8日(金)

● 詳細は当該チラシをご覧ください。

日本・ブルガリア外交関係再開50周年を記念して，1972年の『炎のマリア』から日本初公開となる近年の作品までブルガリアの長篇，短篇映画十数本を紹介します。

ゲオルギと蝶々
(2004年)

展示室(7階)

[企画展]

映画資料でみる

映画の中の日本文学 Part 2

Japanese Literature in Film Part 2

— From the NFC Non-film Collection

4月3日(金)－6月18日(木)

フィルムセンターが所蔵する映画ポスター，スチル写真や脚本などを通して，映画がいかに日本のさまざまな文学作品を糧に生み出されてきたかをたどります。このシリーズ第2回では，昭和のはじめから終戦期までに主に活躍した作家の原作による映画作品に焦点を当てます。

岸田國士 『暖流』
(1939年、吉村公三郎監督)
ポスター

[常設展]

企画展に併設

展覧会 映画遺産

—東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより—

The Japanese Film Heritage

— From the Non-film Collection of the National Film Center —

※月曜日は休室

開室時間＝午前11時－午後6時30分
(入場は午後6時まで)

料金(企画展・常設展共通)＝一般200円(100円)／大学生・シニア70円(40円)／高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)，MOMATパスポートをお持ちの方，キャンパスメンバーズは無料

＊(　)内は20名以上の団体料金です。
＊学生，シニア(65歳以上)，障害者の方は，証明できるものをご提示下さい。
＊フィルムセンターが主催する上映会をご覧になった方は当日に限り，半券のご提示により団体料金が適用されます。

図書室カレンダー

赤字は休室日

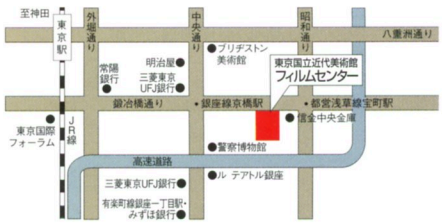
4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

図書室(4階)
開室＝火曜日－土曜日(午後0時30分－午後6時30分／入室は午後6時まで)　閉室＝休館日および日曜日・祝日

2階受付では，「NFCニューズレター」(隔月刊)を販売しています。これは，フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報，上映番組の解説，予告等はもちろんのこと，世界のフィルム・アーカイブやシネマテークの紹介，映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

東京国立近代美術館フィルムセンターは，国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として，また，歴史資料としての映画フィルムを，破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



フィルムセンター　〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
▼交通：
東京メトロ銀座線京橋駅下車，出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車，出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車，出口7より徒歩5分
JR東京駅下車，八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ：ハローダイヤル03-5777-8600
NFCホームページ：
http://www.momat.go.jp/
NFC携帯電話ホームページ：
http://www.momat.go.jp/nfc/k/

表紙：伊豆の踊子(1963年，西河克己監督)